20230625 猪高の森自然観察会　2023 年 6 月報告書

猪高の森自然観察だより　6 月号

開催日時：2023 年 6 月 25 日（日）

天候：晴時々曇り　気温：最低 21.1℃、最高 29.4℃（名古屋に於いて）

テーマ:　水辺の生き物とミニガサガサ体験

参加者構成:一般　24 名（内 NACS-J 指導員 4 名、小学生1名）

コース:森の集会所　→　枕木の木道→　すり鉢池　→　木道　→　森の集会所

（左上の画像はムラサキシキブの花）

アカミミガメの成体

今年は雨が大量にかつ集中的に降ることが多く、例年の雨量を大きく上回っている場所もあり、被害が多発しています。

6月1日から**アメリカザリガニ**と**ミシシッピアカミミガメ**の取り扱い方が変更になり、双方とも**条件付特定外来生物**に指定されました。　（内容は当日以外の内容も含みます）

〇条件付特定外来生物とは・・

手続きなしでできること

- 一般の方がペットとして飼育することができます。
- 水族館や学校等での飼育については、アカミミガメやアメリカザリガニが逃げ出さないような施設で飼育することが必要です。
- 飼えなくなった場合などに、責任を持って飼える人に無償で、譲ったり、譲り受けることができます。

法律で禁止されること

- 生きた個体を野外に逃がしたり、放したりすることは禁止されます。
  適切な飼育を行わずに逃げ出した場合でも違法となります。
- 生きた個体の輸入、販売、購入や、販売・頒布を目的とした飼育等が禁止されます。
- 無償であっても、生きた個体を広く配ること（頒布）は禁止されます。
- 冷凍や加工などをして販売するために商業的繁殖を行うことも禁止されます。

もし、違反して放してしまったら（罰則）

- 懲役３年以下
- ３００万円以下の罰金　　になります。

アメリカザリガニ

アカミミガメの寿命は２０～４０年で甲長２０～２８センチ（2.5キロ）まで大きくなります。

アメリカザリガニは飼育下では５年程度生きます。

２０１９年の調査によるとアカミミガメの飼育の状況は約110万世帯 160 万匹となり、野外の個体は 800 万匹に及ぶとのこと。この数は日本の在来種のカメ総数より多いそうです。

もし、飼えなくなり、譲り受ける人が見つからなかったら、**飼い主としての責任を負い、殺処分をしなくてはなりません。**

① 冷凍する　②首を切り離す　③動物医などに頼んで安楽死（？）のための注射をしてもらう　などの方法があります。

最後まで飼えるかどうかよく考えてから、飼い始めましょう

（画像は「環境省　日本の外来種対策」より）

〇ネジバナの新種が発見されました。（猪高緑地では未確認です）

この時期に芝生や草地などでらせんを描きながら咲いているピンクの可愛い花：ネジバナに新種があることが神戸大学から発表されました。（2023/3/17 掲載）

このネジバナは「ハチジョウネジバナ」と命名されていますが、この近辺では普通のネジバナと分布が重なっています。庭などの鉢植えに勝手に生えてきた個体からも確認されていますので、花期（4～5 月）に注意して来年は確かめて見てください。

ネジバナとの主な区別点

・花期が 4～5 月と早咲きである。

・花序に毛がない。（ネジバナは毛がある。）

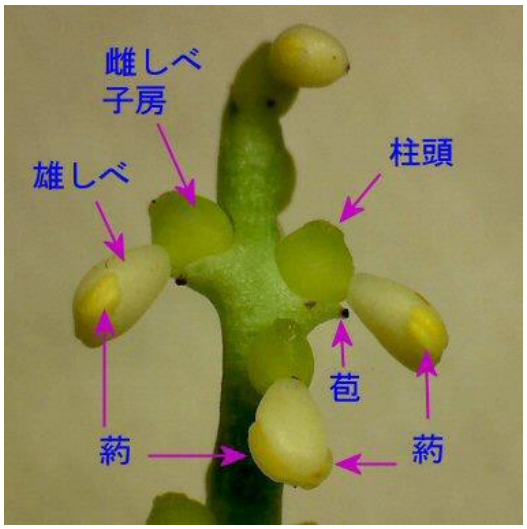
が分かりやすい２点です。

花の構造や受粉の方法でも異なっていますので、詳しくは神戸大学のサイト

https://www.kobe-u.ac.jp/research_at_kobe/NEWS/news/2023_03_17_01.html

をご覧になってください。

〇センリョウの花って変わっている！



右の画像は「木のメモ帳　続・樹の散歩道」より花の拡大画像

お正月の切り花としてよく使われる**センリョウ**の花は今が開花期。でもよく見たことのある人は、少ないのではないでしょうか？

変な花です。（センリョウさんごめんなさい。）花びらはありません。雌しべの横に雄しべがひとつくっついています。

センリョウ科の植物は他にヒトリシズカやフタリシズカがありますが、どの花もちょっと変わっています。分類学上はかなり昔にほかの花と分かれた**古い形態の植物**とされているようです。

身近な花でも知っているようで知らないことが沢山あります。

〇棚田にケリがいました。でも・・。

きれいな鳥です。

子育ての時期に入って大分経ちますので、これは１年以上の若鳥かもしれません。（幼鳥ではない）

子育ての時期に巣やひなに近づいたりすると、ひどい目に合います。

気の強い性質なので、疑似攻撃をしかけられます。鳴きながら空中を突進して来て、直前で翻るので、ぶつかることはありませんが、正直、大変怖いです。以前、襲われている（？）母子を見たことがありますが、小学生と思われる女の子は怖がって泣き叫んでいました。

ヒッチコック監督の映画「鳥」を思い出しました。

気軽に近付いてはいけない鳥です。

〇こんな虫を見かけたら・・・。

多くの種類の樹にこんな感じの虫をよく見かけるようになりました。カイガラムシによく似た風ですが違います。触ろうとすると葉の裏側などに逃げ、追っかけるとピョンッと跳びはねて別の枝などに移ります。

まだ、名前の付いていない外来種のハゴロモの仲間の幼虫と思われます。（名前がもうつけられていましたらご容赦下さい。）

三芳治幸氏撮影

ハゴロモの仲間はセミやウンカに近い仲間です。左に拡大した画像を載せましたので、ご覧ください。頭の形を見ると納得がいきます。

お尻から出したロウ状の物質で身を隠しながら、植物の汁を吸っています。

○昼間に飛ぶガの仲間です。

先月号で紹介した**シロシタホタルガ**の成虫です。左は、交尾の画像です。

幼虫の食樹はサワフタギやクロミノニシゴリです。

右は**カノコガ**。翅の白い部分は半透明です。この翅の模様を子鹿の背中の模様に見立てたことから「鹿の子蛾（カノコガ)」の名を付けられました。

食草はシロツメクサやタンポポなど。

○エゴノキの枝先にこんなものを見つけたら・・・。

これはエゴノキの実ではありません。

エゴノネコアシと呼ぶ「虫こぶ（ゴール)」で、エゴノネコアシアブラムシによって作られます。

バナナ状の房のようになった虫こぶのバナナ１本１本に、アブラムシが入って増えていますが、この虫は７月になると、このバナナを飛び出して、イネ科雑草のアシボソに移動、秋に再び、エゴノキに移るという生活サイクルを営みます。

左がエゴノキの本当の実。エゴノキは別名「セッケンノキ」と呼ばれ、実の皮には「エゴサポニン」と呼ばれる界面活性剤の役割をする成分が含まれています。

それを利用して砕いた実に水を加え、せっけん液を作って利用したり、魚毒性を利用して魚取りに使った、とのことです。

ただし、このエゴサポニンは粘膜に炎症を起こし、赤血球を破壊する毒でもあるので、シャボン玉液に利用したり、顔を洗ったりは厳禁、手を洗う時は、傷のないことを確認して、試してみてくださいね。

〇本物のノコギリカミキリもいました。

「本物」と注釈を入れたのはよく似た「ニセノコギリカミキリ」と呼ぶ種類がいるからです。

胸部の光沢の強弱や触覚の節数などで判断をしますが、詳しくは調べて見てください。

ノコギリカミキリの名前の由来は、触覚の形が鋸の刃のようにギザギザになっていることに由来します。

カミキリムシの仲間の幼虫には、ミカンなどの生木に食い入り「鉄砲虫」と呼ばれる種類がいることから「害虫」のイメージが強いですが、ほとんどの幼虫は枯れ木などを食べ、生態系の分解者としての重要な働きをしています。

〇雨の日にはこんな連中も元気になります！

イセノナミマイマイ

カタツムリは昨年行われました「なごや生きもの一斉調査　陸貝編」にて、ナメクジをふくんで名古屋市内で 51 種確認されました。

別名の「でんでんむし」は子どもたちが殻から出てこいと囃した言葉「出ろ出ろむし」→「出ん出んむし」→「でんでんむし」となった説が有力です。

カタツムリの「カタ」の語源は「笠」。以前の笠は縫い目がらせん状になっていたため「貝」の形容となっていて、「ツムリ」は「つぶら」などと同系の貝の呼称とのことです。

コウガイビルの仲間

ヒルと名前が付いていますが、血を吸うヒルの仲間ではなく、プラナリアに近い仲間になります。

頭の形が「笄（こうがい）」に似ていることからこの名がつきました。ナメクジやカタツムリ、ミミズなどを捕食します。

プラナリアと同様に、大変な再生能力をもち、場所にもよりますが、体をいくつかに切り分けられても再生をする、とのことです。

〇カダヤシとメダカはここで見分けます。

（画像は「大阪府立環境農林水産総合研究所」の HP より）

① 尻びれが体に沿って長いのが、メダカ。小さいのがカダヤシ

② 尾びれが角ばっているのがメダカ。丸いのがカダヤシ。

③ 眼の上部が青みがかっているのがメダカ。いないのがカダヤシ。

④ 外見上の他に、メダカは卵生、カダヤシは胎生（子どもを産む）など。

よく似ていますが、分類上は全く別の仲間になります。カダヤシは雑食性で繁殖力が強く、水の汚れにも強いため、入り込むとメダカを駆逐してしまいます。

猪高の森でも、棚田に行く途中のめだか池には、かつて沢山のメダカが住んでいましたが、誰かがカダヤシを逃がしたために今は全くいなくなってしまっています。また、すり鉢池でも、２年前の池干しのときにはいなかったカダヤシが同様に増えています。

別の場所の生き物や飼っている生き物は、移動させたり、逃がしてはいけません。

今回の観察会では、この他にも

・すり鉢池にてウシガエルのオタマジャクシやヌマエビ
・イソノキの花（ほとんど開かないが、この時期貴重な蜜源のひとつ）
・ナナフシモドキ、カマキリの仲間などの昆虫類
・ヤマモモやヒメコウゾの実を味わってみる

などの観察をしました。

次回観察会は、７月２３日（日）　森の集会所集合　9：30～　です。
名東自然倶楽部の HP では毎月の猪高の森の自然観察会の紹介をしています。
http://sizen.ciao.jp/　から是非ご覧になってください。